

私とおの100

おのみち100キロ徒歩の旅を通じて、私は様々な経験を積むことができました。特にその中でも私にとって大事な経験は様々な人との出会いでした。他大学の学生との交流はもちろん、同じ大学に通っている全く知らない学生との交流は刺激的であり、私に様々な影響を与えてくれました。「出会いに感謝」を初めて聴いたのがおの100であり、その意味を理解することができたのもおの100です。

さて、堅苦しい話はここまでにして、私にとって刺激的なエピソードをいくつか紹介します。初めのエピソードはおの100に参加するきっかけと初回研修の印象です。同じ大学の先輩から強引に記録映像を見せられ、「映像を見たからには参加しようぜ！」と強引に研修に連れていかれました。正直な話、暇つぶしに丁度良いかな位の気持ちで最初は参加しました。まあ最初はびっくりしましたね！新卒の宗教か!?と思ったほどです。驚いたことは他にもあります。研修終盤に行われる振り返りです。いきなり参加者全員が大きな円になり、研修の感想を述べているではありませんか!?現在は考えられませんが、当時はこの時間帯が一番苦手でした。

2つ目のエピソードは本番5日間です。計4回本番を体験しましたが、前日は不安で全然眠ることができませんでした。不安といっても、毎年同じ不安はありません。1年目は未知の領域に...、2年目は班を誘導する立場として...、3年目はまったく違った視点から...4年目は空気を作ろうと...、様々な不安を体験し本番5日間を迎えました。そして迎えた本番の目的は子供たち全員の完歩と毎年同じであっても、得ることは全然違っていました。これこそがおの100の醍醐味であり、私がおの100に参加し続けた理由の1つでもあります。

最後のエピソードはリピーター同士の経験全てです。毎年参加できているのも、同じように参加している仲間がいるからでした。「もちろん、お前も参加するよな」、「当然」といった会話があったからこそ、参加できている気もします。研修が終了してから、毎回のようにはラーメン屋で、学校で、寮でおの100を語り合っていました。意見の衝突もありました。だからこそ、ここまで深く関わることできたのだと思います。

では、エピソードはここまでとして、ここからは、未来、つまりおの100の経験をこれからどう活用するかを考えていきます。正直なところ、全く予想できません。知識として分かっている部分はあるにしても、私はまだ社会を経験していないからです。しかし、絶対に活かしてみせます。これだけ熱く、一生懸命になれた経験が役に立たないわけがありません。以上が私にとっての、「私とおの100」となります。

最後になりましたが、KAKIさん、ねえやん、学生スタッフのみんな、社会人スタッフの皆さん4年間有難うございました。